

1 課題

- ・国語の1年生は「読みこと」、3年生は「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質」に課題がある。
- ・数学の1年生は「量と測定」、3年生は「図形」に課題がある。
- ・社会の1年生は「我が国の政治」に課題がある。
- ・理科の3年生は「生物」「地学」に課題がある。
- ・どの教科も表現する(書くことや説明すること)の正答率が県より低い傾向がみえる。

2 めざす姿

- ・多様な情報の中から自分に有用な情報を取りだし、それを活用して自分の考えを表現できる生徒。
- ・目的と相手意識を明確にして、根拠をもとに自分の考えを主張できる生徒。
- ・基礎的な知識をもとに、「書くこと」を通して自分の思いや考えを相手に伝えることができる生徒。



3 めざす姿に向けた取組の具体

1学期の取組

検証

- 春休みテストの実施
前年度の学習の定着を図るため、春休み期間中の課題を与え、次の学年で春休み明けテストを実施する。
- 「思考力・判断力」の定着を、定期試験の達成度から判断する取組を行う。

- 「全国学力・学習状況調査結果」「基礎・基本定着状況調査結果」の分析
・正答率の低い問題の分析を十分に行うことを通して、その問題の定着率を上げるために、2学期以降の授業改善につなげる。
・指導後の検証として、再度 同程度の課題によって改善状況を判断する。

2学期の取組

検証

- ・課題克服のための各教科の授業改善
- ・課題のあった問題や「思考力・表現力」の定着を判断するための定期試験の問題を作成し、実施する。
- ・特に3年生においては、公立選抜(Ⅱ)の問題に対応できる学力の定着を図る。

- 全国学力・学習状況調査の検証定期テストでの正答率を見る。正答率の70%を目標値にする。
- 「基礎・基本」定着状況調査の検証定期テストでの正答率を見る。正答率の70%を目標値にする。

3学期の取組

検証

- 3年生
高校入試に対応できる学力を身に付けさせる。
- 2年:全国学力・学習状況調査に向けて
・過去問題を計画的に実施して定着を図る。
・課題のある問題(過去問題)を学年末に春休み課題にする。
- 1年「基礎・基本」定着状況調査に向けて
・過去問題を計画的に実施して定着を図る。
・課題のある問題(過去問題)を学年末に春休み課題にする。

- 全国学力・学習状況調査の検証新学学期で対策テスト(休み明け)を行う。(4月)
- 「基礎・基本」定着状況調査新学学期から対策問題を定期的に宿題にする。対策テストを行う。(5月)正答率の70%を目標値にする。



4 取組の結果

1年生 市学力調査(4月)

教科	国語(基礎)	国語(活用)	数学(基礎)	数学(活用)	理科(基礎)	理科(活用)	社会(基礎)	社会(活用)
結果 (対市比%)	64.3 (97.3%)	43.8 (83.5%)	74.3 (102.1%)	67.6 (105.8%)	57.7 (99.5%)	60.7 (118.7%)	59.3 (108.0%)	67.3 (127.7%)

H31「基礎・基本」目標値

(対県比%)
100%



2年生 「基礎・基本」定着状況調査(6月)

教科	国語Ⅰ	国語Ⅱ	数学Ⅰ	数学Ⅱ	理科Ⅰ	理科Ⅱ	英語Ⅰ	英語Ⅱ
目標値 (対県比%)	(100%)	(100%)	(100%)	(100%)	(100%)	(100%)	(100%)	(100%)
結果 (対県比%)								

2年生 検証(12~1)月

教科	国語Ⅰ	国語Ⅱ	数学Ⅰ	数学Ⅱ	理科Ⅰ	理科Ⅱ	英語Ⅰ	英語Ⅱ
目標値 (対県比%)	(100%)	(105%)	(105%)	(100%)	(100%)	(100%)	(100%)	(100%)
取組の結果 (対県比%)								

H31 全国学力目標値

(対県比%)
100%



3年生 全国学力・学習状況調査(4月)

教科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
目標値 (対県比%)	(100%)	(100%)	(100%)	(100%)	(100%)
結果 (対県比%)	74 (97.4%)	60 (98.4%)	65 (98.5%)	47 (102.2%)	64 (96.9%)

3年生 検証(12)月

教科	国語A	国語B	数学A	数学B
目標値 (対県比%)	(110%)	(105%)	(105%)	(105%)
取組の結果 (対県比%)				



市学力調査

「基礎・基本」

全国学力